

2025年第3回新潟競馬特別レース名解説

〈第1日〉

○岩室温泉特別

岩室温泉（いわむろおんせん）は、新潟県中西部にある温泉。泉質は塩化物泉で、別名「霊雁の湯」とも呼ばれる。江戸時代から北国街道の温泉地として栄え、近接する弥彦神社への参拝客で賑わった。

○飯豊特別

飯豊（いいで）は、山形・福島・新潟の3県にまたがる連峰の名。山容が飯を豊かに盛った姿に似ていることに由来するといわれている。飯豊連峰最高峰の大日岳には、東北最大の雪渓「石転ビ沢」がある。

○BSN賞

BSNは、新潟市に本社を置く新潟放送の略称。ラジオは1952年開局、テレビは1958年の開局で共にTBS系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

〈第2日〉

○長岡ステークス

長岡（ながおか）は、新潟県中部にある市。信濃川の下流に位置するため、古くから河川交通が発達し、活発な商業活動が行われていた。夏に行われる「長岡まつり大花火大会」は、日本三大花火大会のひとつとして有名。

○朱鷺ステークス（L）

朱鷺（とき）は、ペリカン目トキ科の鳥。学名は「Nipponia nippon（ニッポニアニッポン）」。国際保護鳥、国の特別天然記念物に指定されており、また新潟県の「県の鳥」でもある。明治中期までは日本各地に生息していた。佐渡市にある「佐渡トキ保護センター」では、トキの保護・繁殖が行われている。

○新潟2歳ステークス（GⅢ）

本競走は、1968年にオープン特別として創設された『新潟3歳ステークス』を前身とし、1981年に重賞競走に昇格した。1997年には距離が芝1200mから1400mとなり、さらに2002年からは1600mへと延伸され、2歳世代で最初に実施されるマイル重賞となった。

＜第3日＞

○新発田城特別

新発田城（しばたじょう）は、新潟県新発田市にある城。周囲に菖蒲（あやめ）が多く咲いていたため、菖蒲城とも呼ばれる。1598年に初代新発田藩主の溝口秀勝が築城した。石垣は、隙間なく積む「切込はぎ」という美観を重視した技法で作られており、城の表門前には赤穂義士の討ち入りで中心的な役割を果たした堀部安兵衛の像が設置されている。

○赤倉特別

赤倉（あかくら）は、新潟県南西部、日本百名山のひとつである妙高山の山腹に位置する温泉地。1814年に村民代表の中嶋源八らが中心となり、温泉場開発の願いを越後高田藩主榊原氏に出し、1816年に開湯したとされている。泉質は、硫酸塩と炭酸水素塩の2つの泉質を併せ持っており、効能は多岐にわたる。紅葉やスキーシーズンには多くの観光客が訪れる。

○日本海ステークス

日本海（にほんかい）は、日本列島と樺太、朝鮮半島との間にあるアジア大陸の縁海。間宮・宗谷・津軽・対馬・関門の5海峡で外海と連なり、黒潮から分流する対馬海流と、リマン海流が流れている。

＜第4日＞

○瓢湖特別

瓢湖（ひょうこ）は、新潟県阿賀野市にある人造湖。白鳥の渡来地として有名で、11月下旬頃のピーク時には5,000羽を超える白鳥が飛来することから、国の天然記念物や鳥獣保護区に指定されるとともにラムサール条約登録湿地の指定も受けている。

○両津湾特別

両津湾（りょうつわん）は、新潟県佐渡島の北東部にある湾。定置網の漁場としては日本有数で、イナダやブリなどの漁獲が多い。湾奥には両津港がある。

○サマー2000シリーズ農林水産省賞典新潟記念（GⅢ）

全5戦で実施されるサマー2000シリーズの最終戦。

本競走は、1965年の新潟競馬再開と同時に創設された重賞競走。創設当初から3歳以上、芝2000mのハンデキャップ競走として実施されていたが、2025年より負担重量が別定に変更された。かつては秋に実施されていたこともあったが、1974年以降は夏季に行われており、夏の新潟競馬の総決算として定着している。

○雷光特別

雷光（らいこう）は、稲光や稲妻のこと。本競走は、直線1000mのコースを、競走馬が雷の光のように一瞬で駆け抜ける様子をイメージして名付けられた。